



BUSINESS REPORT

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社

中間報告書 | 2026年1月1日 ▶ 2026年6月30日



We Find the Way

証券コード No.9147



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。NXグループの第5期第2四半期(中間期・2026年1月~6月)の概況につきまして、ご報告申し上げます。

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
代表取締役社長

堀 切 智

当第2四半期累計期間における世界経済は、一部の国や地域で弱さがみられたものの、全体としては緩やかな回復基調が継続いたしました。一方で、中東情勢の悪化によるエネルギー価格の高騰や、供給制約に起因するサプライチェーンの混乱などにより、先行きに対する不透明感が一段と高まる状況が続きました。

このような経済環境のもと、物流業界におきましては、国際物流では、中東情勢の悪化を背景に、海上輸送および航空輸送の一部に混乱が生じ、輸送ルートやリードタイムに影響がみられたものの、アジア発を中心に荷動きが底堅く、概ね堅調に推移いたしました。国内物流では、個人消費や設備投資の持ち直しにより荷動きの改善がみられたものの、人件費や原油価格の高騰をはじめとする物流コストの上昇圧力は依然として強く、引き続き厳しい状況のなかで推移いたしました。

引き続き、国際情勢の不安定化に伴うサプライチェーンへの影響を注視するとともに、諸コストの高騰など物流環境の変化にも留意が必要な状況にあります。

NXグループは、このように経営環境が大きく変化するなか、2024年1月にスタートした5か年の経営計画「NXグループ経営計画2028 Dynamic Growth 2.0 “Accelerating Sustainable Growth ～持続的な成長の加速～”」の中間年度に当たる当連結会計年度において、長期ビジョンである「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向け、より一層のスピード感と実行力をもって、経営計画に掲げる諸施策に取り組んでまいりました。そのなかでも、「企業価値向上に向けた取組み」を最重要課題と位置づけ、その実行に注力するとともに、構造改革や間接コストの削減を通じて、コストコントロールによる稼ぐ力の強化にも努めてまいりました。

企業価値向上に向けた取組み

2025年2月に「企業価値向上に向けた取組み」をアップデートし、高収益事業へのシフト、アセットの入れ替え、資本構成の最適化、適切な財務レバレッジ活用などROE(自己資本利益率)の向上に向けた取組みに注力してまいりました。

低収益不動産の売却については、2026年度に500億円程度まで拡大し、自己株式の取得は同年度に500億円を上限に実施することとしております。加えて、株価および企業価値のさらなる向上、ならびにエクイティスプレッドの拡大を実現するには、これまでの取組みを「規模拡大」かつ「加速」することが必要と判断し、2026年8月に「企業価値向上に向けた取組みのアップデート Vol.2」を決定し、2027年以降の施策をさらに拡充いたしました。

M&Aによる成長投資として、2026年4月にカナダ最大級の物流企業であり、幅広い産業向けに3PLサービスを展開するMetro Supply Chain Groupの買収を決定いたしました。本件は、「北米での非日系顧客へのアクセス」と「成長地域での事業基盤獲得」という重要課題の解決に加え、米州の売上比率

の上昇によるグローバルでの事業ポートフォリオ最適化や、安定収益が見込めるロジスティクス事業の比率上昇による収益ボラティリティの低減を通じた、外部環境変化への耐性強化につながる取組みと考えております。

事業ポートフォリオ戦略に基づき、日本国内の事業再編も引き続き進めてまいりました。そのなかで、専門性を有するベストオーナーの下で事業を継続することが、当社グループの企業価値向上につながると判断し、不動産事業などを展開するグループ会社数社の株式譲渡を決定いたしました。

グローバル市場での事業成長の加速

アカウントマネジメントを起点としたEnd to Endソリューションの提供をグローバル事業の成長戦略の中核に据え、日系・非日系の大手アカウントに対して専属営業チームを編成し、ソリューション提供領域の拡大に取り組んでまいりました。また、オーガニックな成長戦略にM&A（インオーガニック戦略）を組み合わせた取組みも加速し、cargo-partner社では購買・営業シナジーの創出や拠点の統廃合を進め、Simon Hegele社では専門ノウハウの横展開やクロスセルを推進してまいりました。

グローバル市場での事業成長に向けた取組みを進める一方で、海外事業の収益構造の変化に対応するため、構造改革や合理化を通じた収益力の回復にも注力してまいりました。

日本事業の再構築

日本事業の再構築の取組みとして、アカウント専任体制による重要アカウントへの営業強化、自動化機器の導入や人財育成の推進などロジスティクス事業の強化を中心とした事業成長施策を進めるとともに、収益力および資本効率向上にも継続的に取り組んでまいりました。

収益力向上に向けた取組みでは、人件費・外注費の上昇に対応した料金改定に加え、間接部門費用の削減や社有戦力の活用を進めてまいりました。資本効率向上に向けた取組みでは、日本通運における支店作業会社の再編を進めるとともに、ROICを経営指標として社内カンパニーごとの利益率・資本効率の改善を推進してまいりました。

サステナビリティ経営の推進

サステナビリティ経営を、事業活動と一体となった、企業価値の向上と社会価値の創出の両立を実現するための重要戦略と位置づけ、重要課題（マテリアリティ）の解決に向けた取組みを引き続き推進してまいりました。

重要課題の一つである「サステナブル・ソリューションの開発・強化」においては、お客様のサプライチェーンにおけるサステナビリティ課題を6つに分類・整理し、NXグループの既存サービス・商品と紐付けることで、お客様への提案活動における共通軸を整備するなど、環境配慮型物流や高度化したサービスを通じて、持続可能な社会の実現に貢献するソリューションの開発・強化を進めてまいりました。

この結果、第5期第2四半期連結経営成績につきましては、売上収益は1兆3,566億円、営業利益は447億円、親会社の所有者に帰属する中間利益は242億円となりました。

なお、第5期中間配当金につきましては、本年8月7日開催の取締役会において、普通株式1株につき、50円と決定し、支払開始日を本年9月7日とすることを決定いたしました。

当下半期の経済動向につきましては、米国を中心とする保護主義的な政策の進展や、地政学リスクの常態化に伴うエネルギー・物流コストの高騰、サプライチェーンの分断リスクなど、景気の下振れ要因が根強く残っており、世界経済、日本経済ともに、引き続き先行き不透明な情勢が続くものと予測されます。

このような経営環境のなか、NXグループは、グローバルでお客様や物流業界が直面する社会課題の解決に資するサステナブル・ソリューションの提供拡大を通じて、長期ビジョンである「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向けて、より一層の企業価値向上に努め、株主の皆様のご期待にお応えする所存でございます。引き続き株主の皆様のご理解と温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

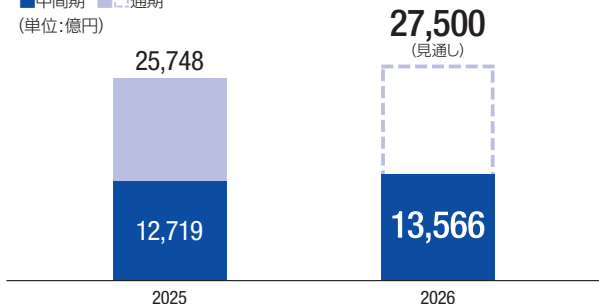
2026年9月

売上収益

1兆3,566億円

(前年同期比6.7%増)

■中間期 ■通期
(単位:億円)

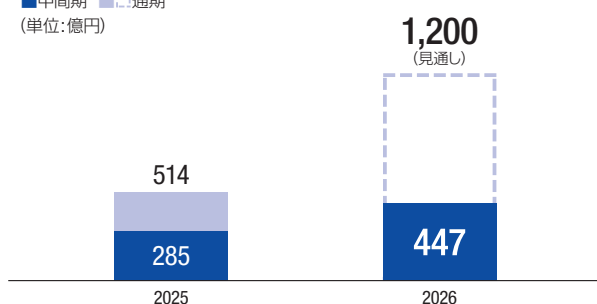


営業利益

447億円

(前年同期比56.7%増)

■中間期 ■通期
(単位:億円)



日本
(ロジスティクス)



米州
(ロジスティクス)



欧州
(ロジスティクス)



東アジア
(ロジスティクス)



売上収益

6,434億円
(前年同期比2.8%増)

売上収益

704億円
(前年同期比1.7%増)

売上収益

3,011億円
(前年同期比20.6%増)

売上収益

935億円
(前年同期比16.0%増)

セグメント利益

278億円
(前年同期比44.3%増)

セグメント利益

20億円
(前年同期比41.0%減)

セグメント利益

41億円
(前年同期比17.8%増)

セグメント利益

26億円
(前年同期比0.5%減)

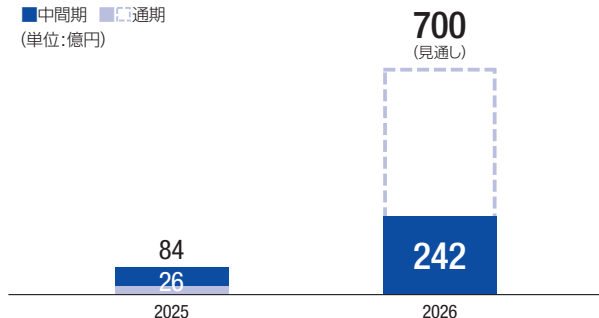
(注) 前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年12月期中間期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

親会社の所有者に帰属する中間利益

242億円

(前年同期比186.8%増)

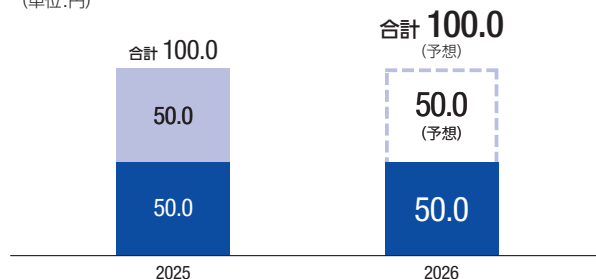
■中間期 ■通期
(単位:億円)



中間配当金

50.0円

■中間 ■期末
(単位:円)



南アジア・オセアニア (ロジスティクス)



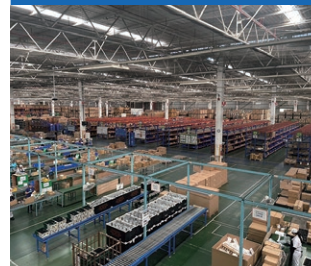
警備輸送



重量品建設



物流サポート



売上収益

971億円

(前年同期比31.6%増)

売上収益

351億円

(前年同期比2.0%増)

売上収益

280億円

(前年同期比13.1%増)

売上収益

2,086億円

(前年同期比7.2%減)

セグメント利益

42億円

(前年同期比116.2%増)

セグメント利益

14億円

(前年同期比3.6%増)

セグメント利益

37億円

(前年同期比62.7%増)

セグメント利益

94億円

(前年同期比26.6%増)

数字で見る
NXグループ※

創 立


1937年

展開国・地域数


57か国・地域

グループ会社数


322社

従業員数 (海外従業員数)


77,925人
(28,669人)

フォワーディング数量


海運 **85.1**万TEU
航空 **93.3**万t

フォワーダーランキング


世界 **4**位

倉庫面積 (国内・海外)


893.2万m²
(406.6万m²・486.6万m²)

※ 2025年12月時点

グローバル市場における位置づけ

NXグループの持つ厚みのある顧客基盤が、グローバル市場での実績につながっています。物流業界は、経済のグローバル化に伴って、国際化しています。グローバルランキングでは、国際的な物流網を構築している先進国を中心とした大手物流企業が上位に入っています。3PL、国際宅配便の成長などを背景に、今後も国境を越えた物流業の再編は活発化していくものと考えています。

ランク	本社所在地	企業	総収入 (百万円) ※	海運 (TEU)	航空輸送 (メートルトン)
1		Kühne + Nagel	5,065,588	4,325,000	2,030,280
1		DSV	5,596,010	3,695,424	2,013,127
2		DHL Supply Chain & Global Forwarding	5,320,394	3,274,000	1,767,000
3		Sinotrans	2,033,062	4,925,154	912,000
4		NIPPON EXPRESS	2,574,862	1,806,197	933,201
5		CEVA Logistics	2,739,693	1,730,000	680,000
6		Expeditors	1,657,140	855,200	928,000
7		C.H. Robinson	2,210,917	1,256,000	280,000
7		KLN	1,118,483	1,149,956	840,508
8		GEODIS	1,751,607	962,000	267,056
9		Cosco Shipping Logistics	1,345,743	1,961,791	207,656
10		Maersk Logistics	2,261,070	635,000	318,000

※ 2025年年間平均TTM 1USD=149.71JPYで換算。

出所：Armstrong & Associates, Inc. A&A's Top 25 Global Freight Forwarders List 2026年を参照し当社にて作成。

社外からの評価

NXグループが選定されている主なESG投資インデックスは、以下のとおりです。(2026年3月現在)

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI日本株IMI指数を構成する銘柄のうち、各業種内でESG格付けの高い銘柄が選択されます。本指数は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行うための選定指針の一つとして採用されます。

2026 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社のMSCIインデックスへの組入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるNIPPON EXPRESSホールディングス株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCI及びMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

環境評価のTrucostによる炭素排出量データを基に、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築。TOPIXをユニバースとし、環境情報の開示状況、炭素効率性(売上高当たり炭素排出量)の水準に着目して、構成銘柄のウェイトを決定する指数です。



MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

女性の雇用や管理職の割合、ダイバーシティへの取組みに関する開示情報を基にスコアを算出することで、長期的に持続可能な成長が見込める企業を選定しています。本指数は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行うための選定指針の一つとして採用されます。

2026 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社のMSCIインデックスへの組入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるNIPPON EXPRESSホールディングス株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCI及びMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE RussellのESG評価に加え、環境負荷の大きさ、および企業の気候変動リスクに対するマネジメントの評価を用いてスクリーニングする選別型のESG総合指数です。



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

Morningstar 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数(除<REIT>)

確立されたジェンダー・ダイバーシティ・ポリシーが企業文化として浸透している企業、および、ジェンダーに関係なく従業員に対し平等な機会を約束している企業に重点をおいた投資が可能になるよう設計された指数です。

NXグループのさまざまな取組みに対して、 ステークホルダーの皆様より評価をいただきました。※

※ 日付は当社WEBサイトニュースリリース発表日

2025年 1月 6日	日本通運、オリコン顧客満足度調査「引越し会社」で4年連続、総合1位を獲得！ ～7つの評価項目全て1位を獲得～
2025年 1月21日	NIPPON EXPRESSホールディングス、 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」4年連続で選定
2025年 6月 3日	NIPPON EXPRESSホールディングス、「フロン対策格付け2024」Aランクに選定
2025年 6月16日	日本通運、第26回物流環境大賞を受賞！ ～先進技術賞、奨励賞も受賞し、持続可能な社会実現に貢献～
2025年 6月19日	NIPPON EXPRESSホールディングス、CO ₂ 排出量削減目標でSBT認定を取得
2025年 7月11日	NXグループ、インテル社より「2025年度 EPIC Supplier Award」を受賞 ～インテルのグローバルサプライチェーン全体からロジスティクスプロバイダーとして唯一の選定～
2025年11月 6日	NXグループ、第57回全国トラックドライバー・コンテストで内閣総理大臣賞を獲得 ～2年連続で内閣総理大臣賞受賞の快挙を達成！～
2025年11月 6日	大成建設と日本通運が取り組む「建設副産物巡回回収システム」が、 「第13回プラチナ大賞優秀賞 資源循環活用賞」を受賞
2025年11月27日	NXインド株式会社、Uno Minda Groupより 「Best Integrated Supply Chain Support Award」を受賞
2025年11月28日	NX国際物流（中国）有限公司、中国最高位の「5 A級物流企業」に認定 ～日系企業として初の最高位認定を獲得～
2025年12月16日	大成建設と日本通運が取り組む「建設副産物巡回回収システム」が、 「第8回エコプロアワード 国土交通大臣賞」を受賞

Metro Supply Chain社買収の位置づけ

◦ M&Aの方向性

NXグループは、2037年までの長期ビジョンとして「売上高4兆円、海外売上高比率50%」を掲げています。この実現に向け、グローバルネットワーク基盤強化のための「グローバルリーチの拡大」と「機能の拡充」を重点テーマとしてM&Aを検討してきました。

M&Aの方向性

グローバルリーチの拡大

- 北米等での非日系顧客へのアクセス、物流機能の獲得（ロジスティクス企業）
- アジア発着レーンの強化（フォワーディング企業）

機能の拡充

- 重点産業の機能強化（半導体等）
- 未進出または拠点拡充の必要な成長地域での事業基盤獲得

Metro Supply Chain社の買収は、NXグループのM&Aの方針・方向性に沿ったものであり、安定収益が望める「ロジスティクス事業」の比率の上昇につながります。外部環境の変化への耐性も強化され、事業構造の変革に資するものと認識しています。

また、今般の買収により現経営計画の売上高目標3兆円の実現に大きく近づいたと考えています。残る経営計画期間では、被買収会社のPMIを加速させ、シナジー創出と収益性の改善に注力し、経営計画の達成を目指します。

◦ Metro Supply Chain社の買収

上記方向性の下、2026年にカナダのMetro Supply Chain社の買収を決定しました。企業価値1,800百万カナダドル（約2,070億円）で、2026年下期のクロージングを予定しています。

Metro Supply Chain社の概要

名称	Metro Supply Chain Group Inc.
設立年	1974年
所在地	1002 Sherbrooke St. West, Suite 2000, Montréal, QC H3A 3L6 Canada
代表者	Chiko Nanji(Founder & Group Chairman)、Chris Fenton(Group President & CEO)
事業内容	3PL（サードパーティ・ロジスティクス）事業
従業員数	約8,000名
展開地域	カナダ、米国および英国を中心に6か国に180超の拠点



特 徴

- カナダに本拠地を置き、**北米を中心に高い競争力を誇る3PL企業**
- 小売、消費財、自動車・製造業、ヘルスケア・ウェルネス、テクノロジー・サービス、公共セクターなど**多岐にわたるエンドマーケットにおいて、強固な顧客基盤**を有する

買収の目的と戦略整合性

Metro Supply Chain社は、北米を中心にコントラクトロジスティクス（3PL）事業を展開し、広大な市場において非日系の有力顧客基盤を持つ企業です。本件は、NXグループのM&A方針における2つの重点テーマである「北米での非日系顧客へのアクセスと物流機能の獲得」および「成長地域での事業基盤獲得」を同時に充足するものであり、戦略的意義は以下の3点です。

戦略的意義		概 要
A	北米におけるコントラクトロジスティクス（3PL）事業基盤の強化と拡大	広大な市場規模を誇り、今後も成長が見込まれる北米において、NXグループのロジスティクスカンパニーとしてのプレゼンス向上
B	End to Endソリューションの機能強化	販売物流領域の拡充を中心としたEnd to Endソリューションの機能強化
C	非日系の顧客基盤獲得	NXグループが有する日系企業を中心とした顧客基盤と重複が少ない、カナダ、米国および英国を中心とする顧客基盤の獲得

買収の想定効果と財務目標

本買収により、安定収益が見込めるロジスティクス事業の構成比を高め、フォーワーディング市況に起因する収益変動の低減を図ります。

想定シナジーとして、北米事業基盤の強化・加速およびグローバルでのEnd to Endソリューション拡大を見込んでいます。NXグループのグローバルフォーワーディングネットワークとMetro Supply Chain社の北米ロジスティクス基盤は機能面で相互補完関係にあり、クロスセルによる事業拡大余地は大きいと考えています。加えて、グループ内金融の活用による金融費用削減など、コストシナジーの創出も見込んでいます。

財務面では、売上高は年率8%成長（現地通貨ベース）を目標とし、上記シナジーにより市場成長を超える成長が可能と見込んでいます。PPA (Purchase Price Allocation) 確定前ではあるものの、無形資産償却後においても連結純利益への寄与は買収初年度からプラスとなる見込みです。

本買収は長期ビジョン実現に向けた重要なファクターです。cargo-partner社およびSimon Hegele社で培ったPMIのノウハウと実行体制を応用し、シナジーを確実に具現化することで、企業価値の持続的向上を実現します。

NXグループ、「NXグループサステナビリティレポート2026」、 「NXグループ統合報告書2026」を発行

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社（社長：堀切 智）は、「NXグループサステナビリティレポート2026」および「NXグループ統合報告書2026」を発行し、それぞれ2026年6月30日および7月13日に当社ウェブサイトで公開しました。

NXグループは、長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向け、サステナビリティを経営の中核に据えています。「NXグループサステナビリティレポート2026」では、ステークホルダーの皆様に対し、NXグループのサステナビリティ活動を網羅的に開示し、企業価値向上につなげることを目的としています。

「NXグループサステナビリティレポート2026」の主なポイント

- 1 サステナビリティ経営戦略と価値創造プロセスの明示
- 2 サステナブル・ソリューションや人権リスクマップなど具体的施策の拡充
- 3 2025年度CO₂排出量実績の早期開示（第三者認証取得済み）
- 4 外部評価指標への適合状況の開示

また、「NXグループ統合報告書2026」では、「重要戦略の融合と実行力の徹底による長期ビジョン実現の確度向上」をテーマに、主に以下の内容について説明しています。

- 資産売却を事業モデル転換と利益成長につなげる取組み
- アジアでの強みを起点とした戦略融合によるEnd to Endソリューション提供の加速
- サステナビリティ経営と事業活動の一体化による持続的な企業価値向上

さらに、現経営計画「NXグループ経営計画2028 Dynamic Growth 2.0 “Accelerating Sustainable Growth ～持続的な成長の加速～”」および、2025年2月に公表した「企業価値向上に向けた取組みのアップデート」の進捗や課題を踏まえながら、戦略の進化と融合による成長加速について詳しく紹介しています。

NXグループは今後も、社会から求められ信頼される存在であり続けるため、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、持続的な価値創造に取り組んでまいります。

WebサイトURL

1 NXグループ サステナビリティレポート2026

日本語版

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/sustainability/report/>



英語版

<https://www.nipponexpress-holdings.com/en/sustainability/report/>



2 NIPPON EXPRESSホールディングス サステナビリティページ

日本語版

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/sustainability/>



英語版

<https://www.nipponexpress-holdings.com/en/sustainability/>



3 NXグループ統合報告書2026

日本語版

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/ir/library/annual/>



英語版

<https://www.nipponexpress-holdings.com/en/ir/library/annual/>



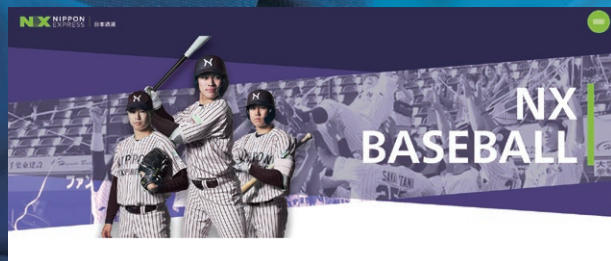
CORPORATION

NIPPON EXPRESSホールディングスのオフィシャルサイトがスタート。最新ニュースやIR情報などを発信しています。
<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/>



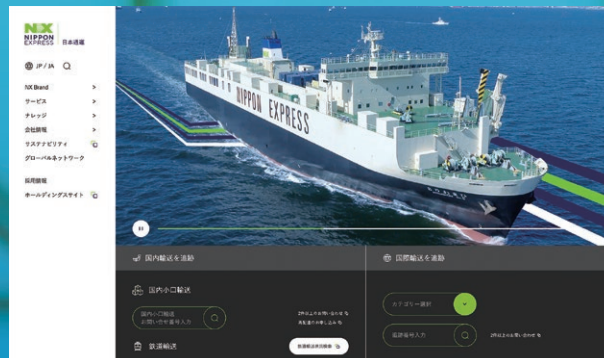
SPORTS

部活動を通して、さまざまなスポーツの普及、振興、国際化に努めております。
<https://www.nipponexpress.com/jp/ja/site/sports/>



CORPORATION

日本通運の事業内容やサービス紹介、最新ニュースなどを発信しています。
<https://www.nipponexpress.com/jp/ja/>

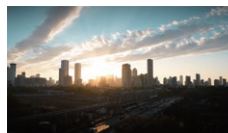


TVCM

放映中のTVCMやTV番組を通じて、当社が展開しているさまざまな取組みを多くの方々にお伝えしています。
<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/about/video/>



NXグループTVCM



企業「Moving India Forward」篇



原英莉花プロ「Perfect シンクロ」篇

LinkedIn公式アカウント

海外のNXグループで手掛ける事業内容を中心に、さまざまな情報を世界のビジネスユーザーに向けて発信しています。
<https://www.linkedin.com/company/nippon-express-group/>



YouTube公式チャンネル

TVCMや企業活動、歴史など当社にまつわる情報を映像でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/channel/UCatNmOs5hJzVWMfQeUnaQ>



NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社役員（2026年6月30日現在）



後列向かって左から

① 社外取締役
工藤 陽子
監査等委員

② 取締役
中本 孝
監査等委員

③ 社外取締役
塚原 月子

④ 社外取締役
榎野 龍二
監査等委員

⑤ 社外取締役
池側 千絵
監査等委員

前列向かって左から

⑥ 社外取締役
伊藤 ゆみ子

⑦ 取締役
執行役員
阿部 幸子
内部監査室担当

⑧ 代表取締役社長
社長執行役員
堀切 智
CEO

⑨ 代表取締役会長
齋藤 充
取締役会議長

⑩ 取締役
常務執行役員
赤石 衛
経営企画部担当兼
経営企画部長

⑪ 社外取締役
柴 洋二郎

執行役員

専務執行役員

大槻 秀史
赤間 立也
大辻 智

常務執行役員

柿山 慎一 **國谷 武史**
松尾 純利

執行役員

天白 淳 **小林 克人** **岡西 康博**
坂本 健 **岸田 博子** **亀川 浩一郎**
小黑 一興 **池田 祐一** **Arnaldo Vivoli**



※柴取締役、伊藤取締役、塚原取締役、榎野取締役、工藤取締役、池側取締役は非常勤とする。

会社概要 (2026年6月30日現在)

会 社 名	NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
本 社	〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町2番地 https://www.nipponexpress-holdings.com/
設 立	2022年1月4日
資 本 金	701億75百万円
事 業 内 容	貨物自動車運送事業等を営むグループ会社の 経営管理およびそれに附帯する業務

株式の状況 (2026年6月30日現在)

株 式 数	発行可能株式総数	950,000,000株
	発行済株式の総数	243,000,000株
株 主 数	56,915名	

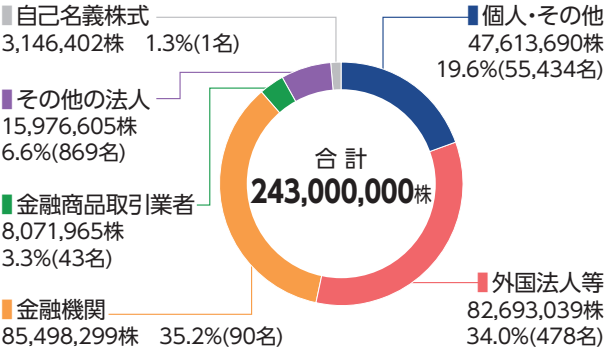
大 株 主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	32,160	13.4
朝日生命保険相互会社	16,805	7.0
NX持株会	11,010	4.6
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	10,728	4.5
BNP PARIBAS NEW YORK BRANCH - PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACCOUNT	9,257	3.9

※持株比率は、自己株式3,146千株を控除して計算しております。

所有者別株式の分布状況

〈株式数および比率〉



単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

当社に市場価格で

売却

60株

—

60株

=



現金化

買増請求

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。

40株を、当社から市場価格で

購入

60株

+

40株

=

100株

単元株式
(100株)

各種お手続きのお申し出先

- ①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社
②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行
(※下記までお問い合わせください。)

東京都府中市日鋼町1-1

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-232-711

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては当社ホームページでもご案内しております。

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/ir/stock-info/procedure/>

NIPPON EXPRESS 株式諸手続き

検索



書面交付請求のお手続きについて

株主総会資料のご送付を希望される場合は、別途証券会社または株主名簿管理人に「書面交付請求」のお手続きをお申し出ください。2026年12月31日までにお手続きが完了しない場合は、当年度の受付はできませんので、お早めにお手続きください。

※過去に書面交付請求のお手続きをいただいた株主様には、継続して株主総会資料を書面でお送りします。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から
12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

基準日 定時株主総会 12月31日
期末配当金 12月31日
中間配当金 6月30日

単元株式数 100株

上場取引所 東京

証券コード 9147

銘柄略称 NXHD

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公 告 方 法 電子公告
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告掲載ホームページアドレス

<https://www.nipponexpress-holdings.com/>

